

中期目標期間（平成30年～令和5年）
公立大学法人 業務実績評価書（暫定評価）

令和5年8月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

| | | |
|-----------------------|-------|--------|
| 中期目標期間評価（暫定評価）の考え方 | ----- | 1 ページ |
| 各法人の評価 | | |
| 1 公立大学法人九州歯科大学 | | |
| （1）全体評価 | ----- | 3 ページ |
| （2）項目別評価 | ----- | 5 ページ |
| 2 公立大学法人福岡女子大学 | | |
| （1）全体評価 | ----- | 10 ページ |
| （2）項目別評価 | ----- | 12 ページ |
| 3 公立大学法人福岡県立大学 | | |
| （1）全体評価 | ----- | 17 ページ |
| （2）項目別評価 | ----- | 19 ページ |

中期目標期間評価（暫定評価）の考え方

1 中期目標期間評価（暫定評価）の対象期間

中期目標期間（平成30年度から令和5年度までの6年間）のうち、平成30年度から令和3年度までの4年間

2 中期目標期間評価（暫定評価）の目的

評価結果を、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等の検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に暫定評価を行うもの。

3 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標の達成状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
- 4：中期目標の達成状況が良好である。
- 3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
- 2：中期目標の達成状況が不十分である。
- 1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。

4 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標の達成状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が令和5年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、令和5年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

九州歯科大学は、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育を行うとともに、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育に加え、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病予防の取組を幅広く展開するなど地域貢献にも力を入れている。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているが、遠隔授業も的確に組み合わせて学生の学修機会を確保するとともに、感染拡大防止対策を行ったうえで大学の特色である医科歯科連携実習も継続するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。

特に、理事長の強いリーダーシップにより、卒業目標の達成に向けて学修成果を明示する「アウトカム基盤型教育」の実現に向けた教育改革を推進し、ルーブリックを活用した学修評価、先進的シミュレーター導入による臨床教育の充実、大学院修了率の向上などの成果をあげている点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「九州歯科大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績評価（暫定評価）については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては達成状況が良好であると認められる。

中期目標期間の各年度の業務実績評価及び今回の暫定評価の結果を踏まえ、引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、公立大学としての役割を意識して実践的な歯科医療人の育成を目指し、中期目標・中期計画の着実な達成に努めるとともに、内部質保証における組織的な取組などの中で明らかとなった課題や今後目指すべき方策については、次期の中期計画の作成に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

| | |
|----|-----------------------|
| 評価 | 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。 |
|----|-----------------------|

教育については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
 - ・初年次教育のシラバスの改訂を行うとともに、新入生スタートアップ学修支援プログラムを開始し、歯科医療人としての意識の向上に繋げるなど、教育の充実に取り組んでいる。
 - ・モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、医科歯科連携実習を多く取り入れ、コロナ禍においても総合病院と連携した教育を継続するなど、実践的な歯科医療人の育成に取り組んでいる。
 - ・ステューデント・デンティスト認定制度の実施体制を整備し、臨床実習前の適正な評価を図るとともに、他に先駆けて導入したデジタル歯科シミュレーターを、学部の技能教育に適した形に改良を加え、学生の臨床技能の向上に向けて実習を充実させている。
 - ・コロナ禍において評価基準を明確にするなどして遠隔授業を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行うことにより、学生の学力の向上に取り組んでいる。
 - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和元年度以降、歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）が高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率100%を維持している。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・ルーブリック評価法を導入し、評価の観点と基準を示したうえで、学生の学びの達成度を適切に評価するとともに、学位の申請要件を見直すことにより、修業年限での学位取得の増加に繋げるなど、大学院の教育システムを顕著に改善している。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・図書館及び食堂にラーニングコモンズを整備し、グループ学習への転換など教育方法の工夫を図るとともに、個人業績評価で教育

業績の低い教員に対して、職位に応じた教育力向上プランを提示するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義等の高大連携や高校訪問、コロナ禍におけるWEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を行うとともに、広報誌 Platys を活用した広報活動を充実させるなど、意欲のある優れた人材の確保に取り組んでいる。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、学生からの健康面、精神面、学習面の相談等に対応するとともに、新入生の助言班活動や初年次ガイダンスを通じて、学生の問題を早期に把握し、学生生活を円滑に送れるよう支援するなど、きめ細かな対応を行っている。

(6) キャリア支援

- ・歯学科にキャリアデザインに関する科目を開講し、多様なキャリアパスに結びつくインターンシップ等の活動を支援するとともに、口腔保健学科において、希望職場への就職活動を支援する体制を充実させ、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、就職率100%を維持している。

2 研究

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

研究については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院等との連携を強化し、地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携や多職種連携を目指した歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開している。
- ・成人歯周病検診を幅広く展開するため、企業等との連携により大規模な歯周病リスク検査を実施し、歯周病予防と全身疾患の関連

に係る研究を展開しているほか、歯周病重症化予防のため、国民皆歯科検診の実現に向けた研究を開始している。

3 地域貢献及び国際交流

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・平成30年度に「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師、歯科衛生士を対象とした摂食嚥下障がい等に関する実践的教育を行うとともに、コロナ禍においても小児歯科医療に関するセミナーや開業医からの相談にオンラインで対応している。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を充実させるとともに、成人歯周病予防の取組を幅広く展開するため、地域の経済団体等と連携し、事業所検診に併せた歯周病検査事業や、コロナ禍に対応できる歯周病検査キットを用いた郵送検診事業を実施している。
- ・学術交流協定に基づき、短期留学生の受入れや海外短期派遣プログラムに取り組むとともに、コロナ禍においてもオンライン国際交流プログラムを実施するなど、海外大学との交流を進めている。

4 業務運営の改善及び効率化

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学長裁量経費を確保するなど戦略的な大学運営に取り組んでいるほか、コロナ禍においてスマートフォンを活用して学生の健康状

態を毎日確認するなど、感染拡大防止対策を実施している。

- ・ 附属病院の組織体制を整備し、包括歯科診療の拡充や多職種連携の推進を図るとともに、電子カルテシステムを活用し、臨床教育素材のアーカイブ化を行っている。

5 財務内容の改善

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

財務内容の改善については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・ 全学説明会で理事長自ら決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、電子カルテシステムから得られるデータ解析を活用して診療収入の向上に繋げている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築し、教育の改善に向けてPDCAサイクルが効果的に機能するよう取り組んでいる。
- ・ 大学ホームページや広報誌の充実を図り、教育研究情報を適切に公開している。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が令和5年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、令和5年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡女子大学は、クォーター制導入後のカリキュラム改定、教育の場としての寮活動の充実、感性教育の実施、女性のキャリア形成のための教育プログラム等、様々なリーダーシップ育成のための意欲的な教育を展開している。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けているが、遠隔授業も的確に組み合わせて学生の学修機会を確保しており、また感染拡大防止対策を行ったうえで全寮制教育を維持するとともに、海外大学との行き来が制限される中で、交換留学生の実派遣を再開させ、オンラインによる教職員及び学生の国際交流を推進するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。

特に、平成30年度のクォーター制導入直後から、教職協働の学内プロジェクト組織によるボトムアップ等も活用し、教育効果等の検証及び改善を行い、次代の女性リーダー育成のためのカリキュラム改定を実現した点や、社会人女性のための高品質のキャリアアップ・プログラムを実施し成果をあげている点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡女子大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績評価（暫定評価）に

については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては達成状況が良好であると認められる。

中期目標期間の各年度の業務実績評価及び今回の暫定評価の結果を踏まえ、引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、中期目標・中期計画の着実な達成に努めるとともに、内部質保証における組織的な取組などの中で明らかとなった課題や、令和5年度の創立100周年の節目を踏まえた今後の目指すべき方策については、次期中期計画の作成に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

| | |
|----|-----------------------|
| 評価 | 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。 |
|----|-----------------------|

教育については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・平成30年度からクォーター制を導入し、学生アンケートやファカルティ・ディベロップメント（FD）等による教育効果の検証及び改善に取り組み、幅広い学びを提供するための文理統合科目や、大学の教育理念を具現化するためのリーダーシップ開発系科目を重視した新たなカリキュラム（令和4年度入学生から適用）を完成させるなど、特色ある教育を展開している。
- ・学術英語プログラムや課外補習講座を充実させ、学生の総合的な英語力の向上を図るとともに、英語教育を「学術・キャリア英語プログラム」に再構築し、2年間の英語集中学習と専門教育を連動させる教育を導入している。
- ・カリキュラムにおける女性リーダー育成関連科目を充実させるとともに、学内委員会に学生を参加させ、自らのリーダーシップへの気づきを促し、その成長を発信する機会を設けるなど、女性リーダー育成教育を推進している。
- ・交換留学、語学研修、体験学習等、学生の海外派遣や留学生の受入れに力を入れるとともに、コロナ禍においても協定校等が実施するオンライン研修やセミナーに多くの学生を参加させるなど、国際性豊かな学習環境の充実に取り組んでいる。
- ・「国際学友寮 なでしこ」において、学生の主体性を引き出しながら寮活動や運営に参加させるなど、教育の場としての寮体制を充実させるとともに、コロナ禍においても感染症対策を徹底し、全寮制教育を実施している。また、豊かな人間性を培う感性教育に取り組んでいる。
- ・食・健康学科において、専門教育を充実させるとともに、管理栄養士国家試験の合格率100%を維持している。

(2) 大学院課程

- ・人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科の教育研究の充実に取り組み、高度な専門的知識の獲得や学際的な研究能力の向上を図っている。両研究科ともに、平成29年度に開設した博士後期課程において博士号取得者を輩出している。

(3) 教育活動の活性化

- ・全職員参加型のFDに加え、参加者が自発的にテーマを設定して担当領域の改善を図るワークショップ型のFDを行うとともに、コロナ禍において遠隔授業の方法と改善に関するFDを実施するなどして授業の質の向上に努めるなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・海外協定高校からの学生の受入れ、高校単位でのキャンパスビジットなど、工夫した募集広報活動を行うとともに、コロナ禍においても人数等を限定した来校型オープンキャンパスやオンラインによる高校教員向けの大学概要説明会を実施するなど、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学修ポートフォリオの積極的活用を図るとともに、ラーニングコモンズにおいて学生主体の学習イベント等を多数開催するなど、主体的学修支援の充実に取り組んでいるほか、コロナ禍において教職員が連携して学生のメンタルケア等の支援を強化している。

(6) キャリア形成の支援

- ・キャリア教育をカリキュラムにおける「リーダーシップ開発系」に位置付けるなど、体系的な教育の充実に努めるとともに、キャリア支援部会を設置するなど、教職協働による就職支援の強化を図り、就職率が高水準を維持している。

2 研究

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

研究については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」を設立し、大学の知的資源を活用して、男女共同参画、

健康社会づくりなど社会的重要な課題に対応する研究をはじめとした総合的な取組を開始している。

- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用した研究交流を推進するとともに、コンソーシアム外の大学との共同研究も実現させるなど、国際的な研究交流を推進している。

3 地域貢献及び国際交流

| | |
|----|-----------------------|
| 評価 | 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。 |
|----|-----------------------|

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・社会人女性のキャリア支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」に加え、再就職支援のための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を実施し、雇用に繋げるなど成果を上げている。
- ・出前講義やイングリッシュ・キャンプ等の高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジの開講、地域コミュニティとの連携事業等に取り組むとともに、福岡女子大学美術館や図書館で様々な企画展を行うなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・海外8大学との新たな交流協定の締結等、海外大学との交流を充実させるとともに、留学説明会や留学経験者による相談会等、在校生の海外志向を高める取組を実施し、留学生の短期受入れ、学生の海外派遣に繋げている。コロナ禍においても的確なリスクマネジメントを行うとともに、オンラインを活用した交流プログラムを効果的に実施するなど、国際交流の推進に力を入れている。

4 業務運営の改善及び効率化

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が

良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教職協働組織（センター）への再編や、教員対象研修会への職員の積極的参加等、教職協働の観点からの取組を強化し、大学の円滑な運営の実現や多様なニーズへの対応を図っている。
- ・教職員の多様な視点によるユニークな提案を募集する「教育活動活性化提案事業」を実施している。

5 財務内容の改善

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

財務内容の改善については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教員に対する外部資金獲得セミナーの開催や科研費獲得者によるピア・レビューなど、外部資金獲得のための支援を行い、一定の収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価委員会を中心に内部質保証体制を整備している。
- ・大学ホームページ等により教育研究情報を適切に公開しているほか、大学紹介動画やブログの掲載、広報誌での新企画等、高校生

を意識して積極的な広報を推進するとともに、マスコミや企業へも積極的にアピールするなど、大学ブランドの浸透に力を入れている。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が令和5年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、令和5年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡県立大学は、「学生ファースト」の理念を掲げる公立大学として、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる潜在能力や汎用力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域の課題解決に貢献する活動を積極的に展開し、成果をあげている。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているが、遠隔授業も的確に組み合わせて学生の学修機会を確保しており、またシミュレーションルーム等を整備し学内実習を充実させるとともに、eラーニングやオンラインによる国際交流も進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。

特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談対応や学生の子どもサポート活動、学生ボランティア派遣による学習支援など大学が一体となった取組に加え、新たに不登校児童生徒の社会的自立支援体制の構築に取り組むなどの顕著な成果をあげている点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡県立大学は、大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たして

いる」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績評価（暫定評価）については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては達成状況が良好であると認められる。

中期目標期間の各年度の業務実績評価及び今回の暫定評価の結果を踏まえ、引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、地域貢献活動をはじめとする取組の一層の推進を目指し、中期目標・中期計画の着実な達成に努めるとともに、内部質保証における組織的な取組などの中で明らかとなった課題や今後目指すべき方策については、次期の中期計画の作成に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

教育については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識と他の専門職との協働について体系的に学ぶ「多職種連携プログラム」を立ち上げ、福祉社会における多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成を目指すなど、特色ある教育を展開している。
 - ・導入教育科目の充実や教養演習テキストの改訂、語学教育の強化などに取り組んでいるほか、コロナ禍においても新入生が遠隔授業を円滑に受講できるようきめ細かな対応を行い、学習の基盤づくりを強化するなど、教養教育を充実させている。
 - ・人間社会学部において、全学横断型教育プログラムの履修科目を充実させ、履修要件を満たした学生に学修証明書を交付するなど、教育の充実に取り組んでいる。
 - ・看護学部において、履修科目の充実やOSCE（客観的臨床能力試験）の実施、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムでの共同授業の実施など、看護技術の強化に取り組むとともに、コロナ禍においても学内にシミュレーションルーム等を整備し、実習教育を充実させている。
 - ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施して学生の意見を取り入れ、シラバス様式の全面改訂やメディア授業科目の設置を行うなど、大学院教育の充実に取り組んでいる。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、学修成果を的

確に把握するためのアンケートやアセスメント・プランを実施するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・インターネット出願への移行、入試説明会参加や高校訪問等の高大連携事業の実施に加え、コロナ禍におけるオンラインを活用したオープンキャンパスや個別相談会の開催、国公立大学初となる全国児童養護施設推薦特別選抜の導入など、意欲ある学生の確保のために様々な方策を講じている。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍において eラーニングコース開設数を大幅に増加させているほか、学生支援の窓口を一本化するための「学生総合支援センター」を開設し、学修、学生支援体制の充実を図っている。
- ・寄附金を活用した特別奨学金制度を新設し、経済的理由により修学が困難な学生を支援している。

(6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目の充実等、キャリア教育の推進に取り組むとともに、コロナ禍においてもインターンシップをオンラインと対面のハイブリットで工夫して実施しているほか、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が高水準を維持している。

2 研究

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

研究については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において組織体制を見直し、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体と連携協定を締結し、地域の課題解決に向けた共同研究を行っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。

3 地域貢献及び国際交流

| | |
|----|-----------------------|
| 評価 | 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。 |
|----|-----------------------|

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や福岡県の行政課題の解決に貢献する取組、中期計画に掲げる実施内容以外にも地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師・社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象とした研修会を継続して実施するとともに、看護師の特定行為研修事業を開始するなど、地域ニーズに的確に対応したりカレント教育に取り組んでいる。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて不登校やその支援に関する相談や県大子どもサポーターの派遣、キャンパス・スクール事業等を実施していることに加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けたネットワーク構築、新たな不登校を減少させるための不登校情報の分析支援の取組を開始するなど、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げている。また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣し、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・海外の交流協定締結校との教員交流や短期研修プログラム（派遣）などに取り組むとともに、コロナ禍においても協定校とオンライン交流イベントを行うなど、国際交流を進めている。
- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

4 業務運営の改善及び効率化

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を実施するための研修室の整備や学内実習を充実させるためのシミュレーションルームの確保、学生窓口の一本化を図るための関係部署の移設など、学内資源の配分を継続して見直している。
- ・インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料の収納業務、遠隔授業導入に際しての IT に関する相談対応業務等の外部委託を行うなど、業務の効率化に取り組んでいる。

5 財務内容の改善

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

財務内容の改善については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めており、目標を上回る収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「学生ファースト」の理念の下、内部質保証体制を整備し、学生の意見を把握するなどして、教育の改善を図るとともに、大学改革セミナーの開催を通してPDCAサイクルの向上を周知し、全学での取組を図るなど、内部質保証システムの維持・向上に取り組んでいる。

- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。